

はじめに

愛知県へき地医療支援機構専任担当医師

中津みどり



愛知県へき地支援機構は平成14年4月に設置され、今年でもう8年目となり、その活動は、日々の診療支援につながる「へき地医療支援システムの運営」、へき地診療所からの代診依頼にこたえる「医療従事者の派遣調整」、などの診療の直接的な支援と、今後のへき地支援のあり方、改善などを図る「へき地医療支援計画策定会議の開催」や「愛知県へき地医療研修会の運営」など、どれもへき地医療の発展のために不可欠と考え、取り組んでまいりました。

私は、赴任してまだ半年ですが、本来へき地医療を支援する地域中核病院の医師不足の問題や増加する女性医師の産休や育休の問題などまだまだ考えなければならないことは多く、愛知県のへき地医療がさらに充実するようへき地医療の発展に貢献できたらと考えています。

へき地の住民の皆様が安心して暮らし、へき地医療従事者が継続して働き続けることができるよう支援していきたいと考えておりますので、皆様のご意見やご要望を気軽に支援機構までおっしゃってください。よろしくお願ひします。

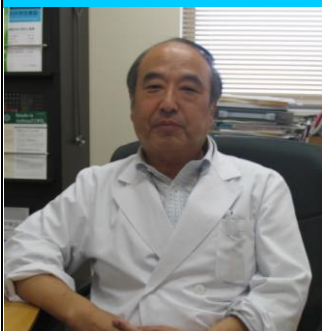
所在地 愛知県がんセンター愛知病院内

電話 0564-21-6251 内線 2573

開業医訪問

中根医院

院長 中根幸雄



平成18年4月当地で開業いたしました。新城との縁は名古屋大学勤務後、平成10年に新城市民病院内科で勤務を始めた時からです。約7年間勤務いたしました。当時、科間の垣根の低い家庭的な医局

で、種々の科の先生に色々教えていただきました。その後諸事情あり名古屋南部の病院で管理職をしましたが、都市部は人情、真面目さ、自然など失われており新城で心穏やかに仕事する事が自分には合っていると判りました。8ヶ月で退職し開業準備をいたしました。急に開業を決めたので4ヶ月間で建設可能なハウスメーカーに建ててもらった医院です。

小さな建物ですから狭い院内でできる検査や治療に限界がありますが呼吸器系に関しては専門医として酸素療法や喘息の最新治療、肺癌の術後の治療など積極的にやっています。血液中の酸素だけでなく炭酸ガスも院内で測っています。健診の結果や病気の説明、治療に関することも相談をうけています。

病気によっては最適と思われる病院を直ちに紹介し時間のロスなく手術や高度な治療をうけていただいています。紹介する判断を少しでも早くする事が大切と考えて

勤務医訪問

市民病院皮膚科

部長医師 濱松 徹



平成15年4月より皮膚科医として勤務させていただいています。当初は代務医の先生と二人三脚でしたが、平成20年より一人常勤となっております。午前中の外来の他、水曜日と金曜日は午後3

時からの午後診療を、火曜日は足に病変のある患者様専用の“足外来”を開設しています。

当科では、あせもやかぶれ、虫刺され、蕁麻疹などの湿疹病変から、ウオノメ、タコやイボの処置をはじめ、熱傷や皮膚の外傷の処置も行っており、毎週木曜日の午後にはホクロや皮膚腫瘍などを局所麻酔下に手術も行なっています。また、皮膚の細菌感染やウイルス感染、重症の蕁麻疹など、症状に応じて入院加療にも対応しています。この他、外来及び入院患者様で、長期臥床や身体の御不自由な方に多い褥瘡の処置にも対応させていただいています。

医療環境が、年々きびしくなる中、患者様へは、できる限りの対応をスタッフともども心がけて診療にのぞみたいと思っておりますので、これまで以上に、地域医療に従事されている先生方には、患者様の受診のご紹介やご依頼をよろしくお願い致します。

中根医院

います。その後落ち着いたら家から近い当医で日常の診察を続けてもらっています。

また近年増えているアレルギー疾患に関しては今まで多少勉強してきましたので知識がお役に立てばとアレルギー科の標榜をして診療しています。

地域の皆様に信頼いただけるよう努力しておりますが至らないことも多く、助けていただくこともあると思っておりますがよろしく願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土
<午前> 8:30~12:30	○	○	○	○	○	○
<午後> 15:30~18:30	○	○	○	△	○	△

休診日：日曜・祝日、木曜午後

TEL 0536-24-1661



市民病院皮膚科

診療担当医表

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	濱松	濱松	濱松	濱松	濱松	△
午後	橋端回診	検査 足外来	濱松	手術	濱松	△



↑スタッフ一同でお待ち申し上げております

みんなの広場

鳳来っ子親子遊び

(鳳来西地区民生委員、主任児童委員)



↑おやつ作り

地域の豊かな自然を生かした季節の体験活動を取り入れています。

今年度春は、地域の方の畑を借りてサツマイモのつる挿しをしたり、お年寄りと交流しながら遊んだり、夏には、広見ヤナで鮎のつかみ取りを楽しんだり、栄養士さんとおやつ作りをしました。秋は、親子で挿したサツマイモの収穫をしま



↑鮎つかみ取り

過疎化・少子化の進んだ山間部の当地区では、同年代の子供が減少し、子育て中の親子が孤立しやすい状況です。

このへき地にも、気軽に集まって、育児の悩みや不安を話したり、同年代の子供と遊んだりできる場があったら……という若い母親の声を聞き、それなら「大切な子供を地域全体で育てようよ」と、地区の民生委員三名と主任児童委員二名の計五名で立ち上げました。慣れない活動で、毎回試行錯誤を繰り返し、何とか一年が経ちました。

月一回の活動では、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、リズム遊びを中心に、

また、地区の秋祭りに参加したり、郷土の五平餅作りも体験する予定です。

こうして多くの地域の方と触れ合い、素朴で優しい目と手で育てられることで、母親の心も安定し、子供たちも心豊かな人間に成長していくことを願っています。



↑サツマイモ掘り